

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 1月20日 8:55AM 更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 46,000～55,000 円

### [NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 47,000～50,000 ドル  
(S&P500) 6500～7200

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 23,500～26,200  
(ナスダック総合) 21,500～24,200

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～160.000 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

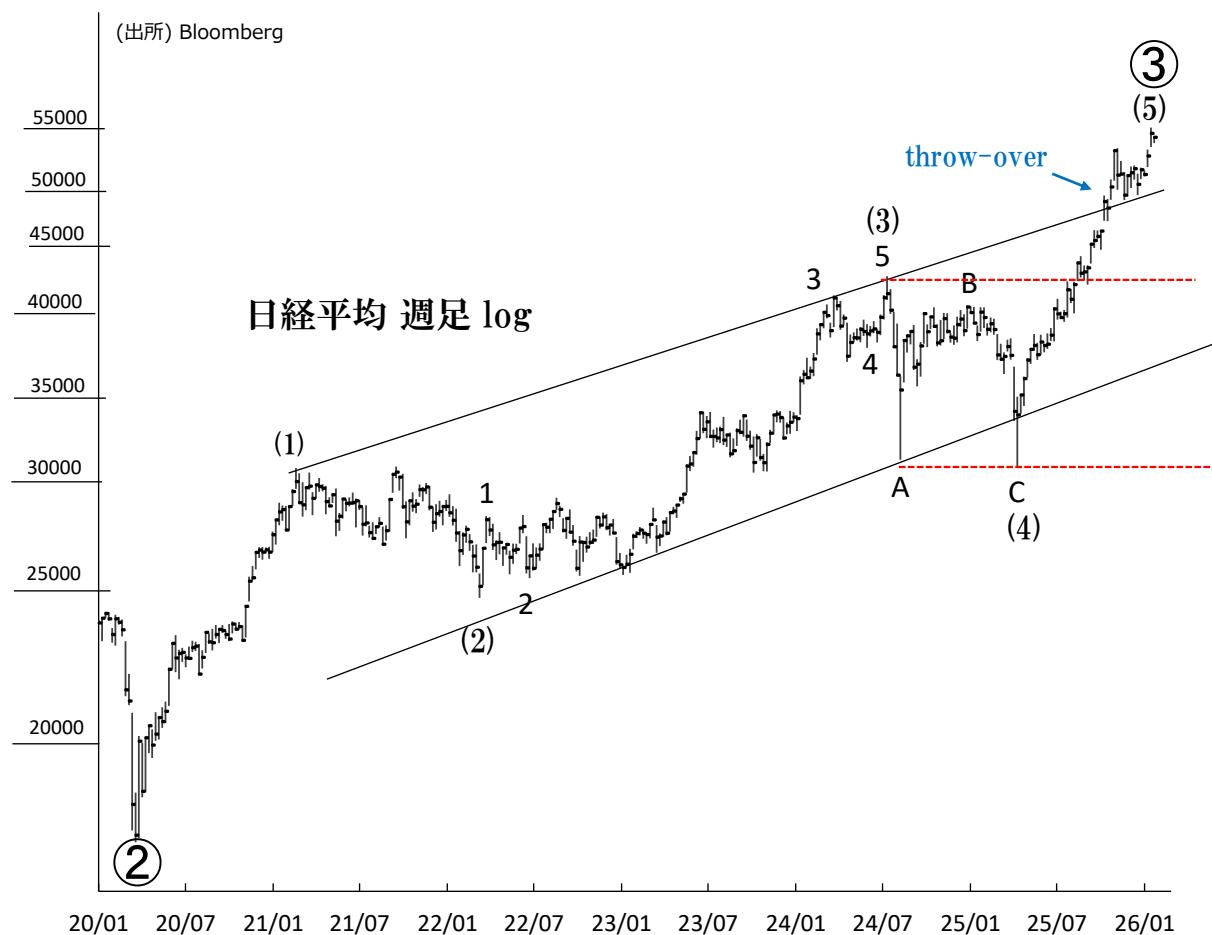
米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。

相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

## 日経平均

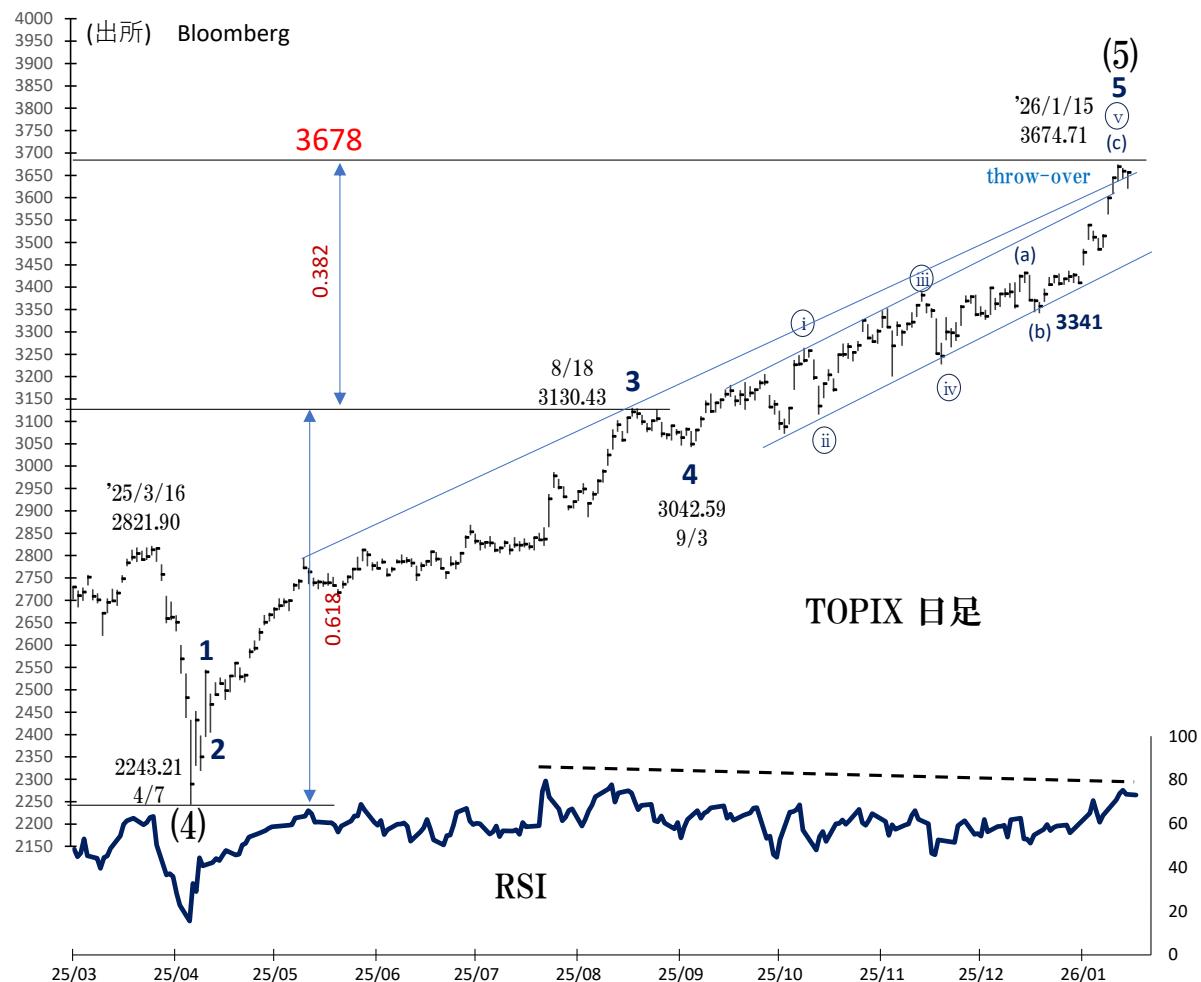


### 【週足 エリオット波動分析】

2025年4月安値(30,792.74円)を起点とする、インターミディエイト級第(5)波の完了が近づいています。引き続き54,500円～55,000円を打診するかもしれません、その一方、プライマリー第④波の調整に既に入り始めた可能性もあります。ひとたび④波の調整が始まれば、それは[42,426円～30,792円](第③波中第④波領域)を目指すことでしょう。

日柄面からは、いつ高値を付けてもおかしくありません。週次サイクルの間隔(安値～安値)は42週～44週程度ですが、直近高値の1月第3週は、現行サイクルの40週目に当たります。もし54,478円(1/14高値)がピークなら、今後の数週間は急落の展開かもしれません(※)

(※) 例えば23年10月安値からの上昇は通算40週で終わり、その後の4週間で高値から安値までの下落率は一時26%超えました(令和のブラックマンデー)。

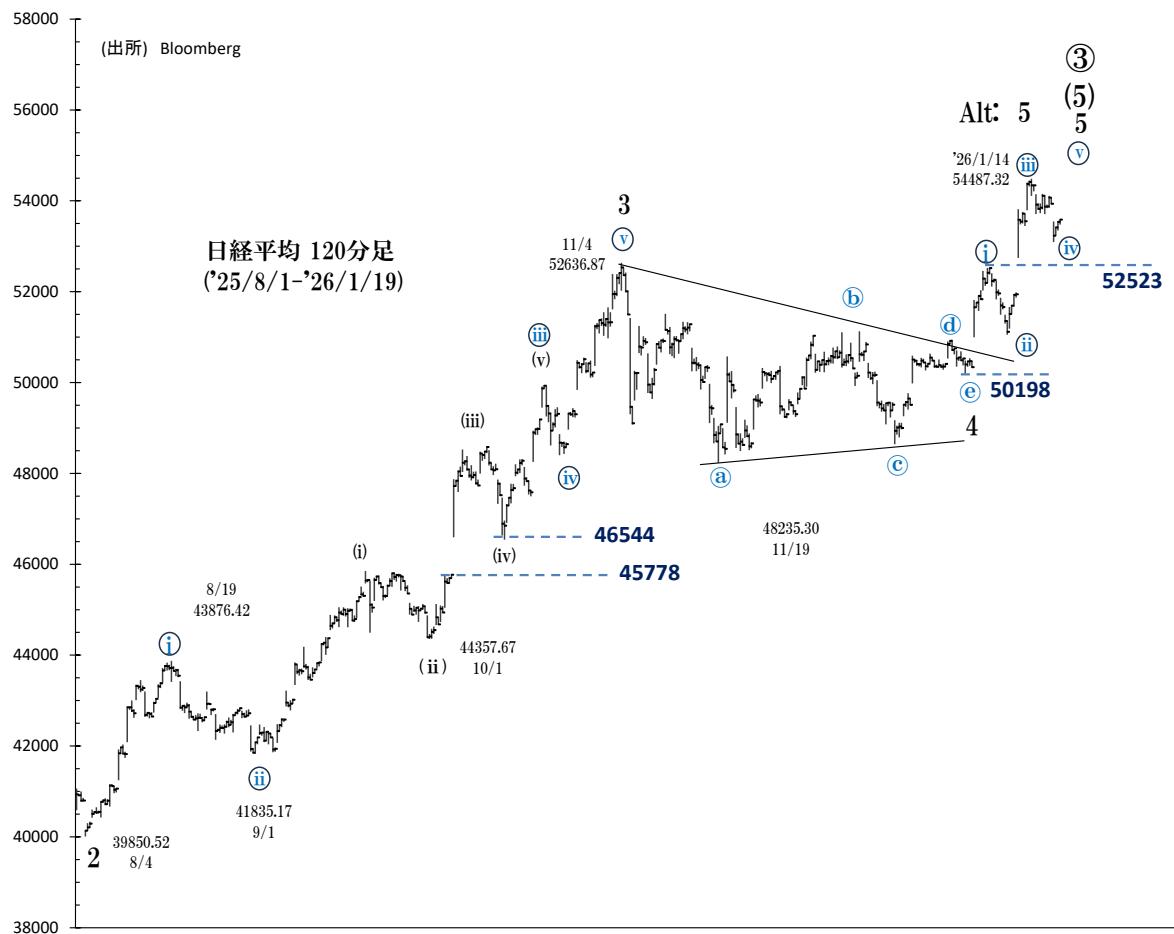


### [TOPIX]

1月15日に一時3674へ上昇しましたが、この値は斐波ナッチャンク比率のチャート節目[3678]に近いものです。1月5日、13日、そして14日と連続して3つマドを空けており(「三空」)に近いパターン)、このような上昇過熱の反動は短期的にも起きるでしょう。

今のところは25年5月高値と8月高値を通るレジスタンスライン(今週は3636)を上回っています。終値が3636を下回ると「スローオーバー」が確認され、調整入りが示唆されます。

25年7月下旬以降でRSIの高値切り下げは続いています。半年にわたる弱気ダイヴァージェンスは、大きな調整入りの接近を暗示します。



### [日経平均]

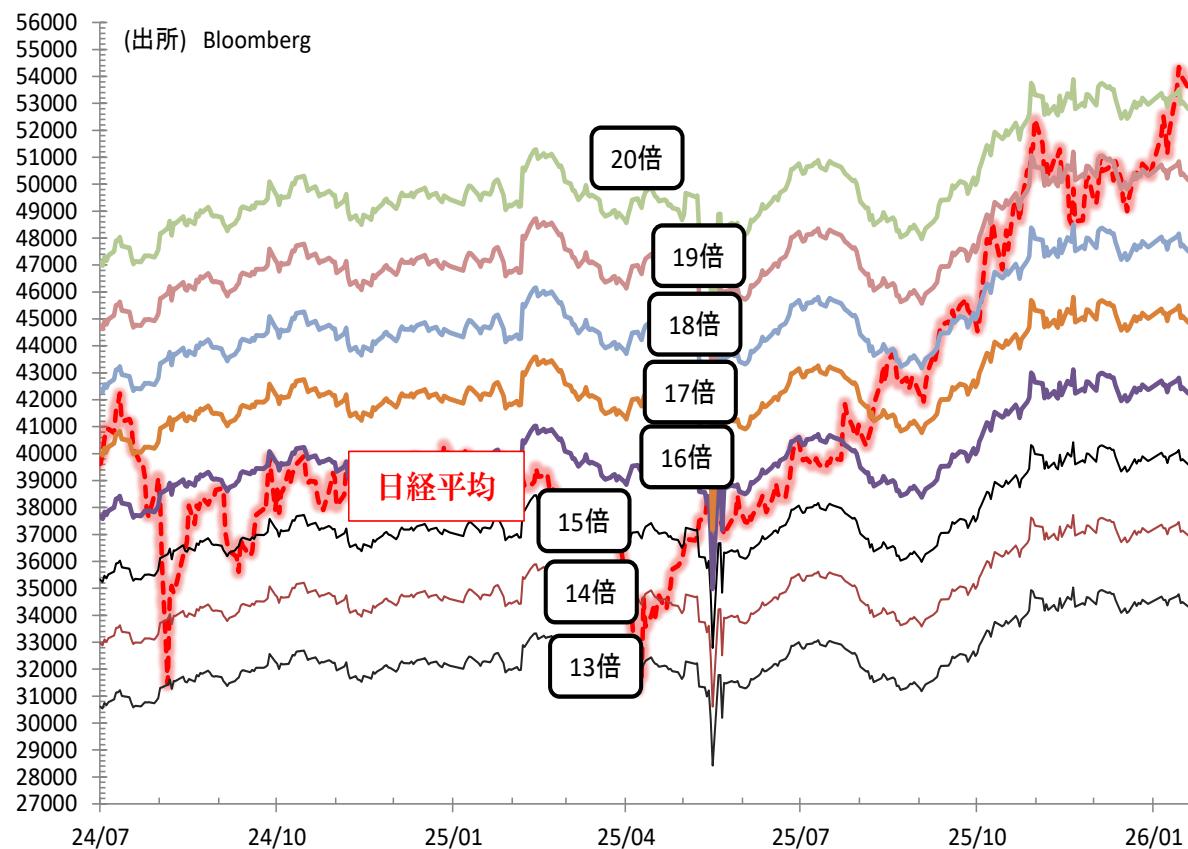
50,198 円(12/30 安値)以来の上昇は、マイナー級の第 5 波に位置付けられます。

54,487 円(1/14 高値)からは、第 5 波中マル iv 波による調整とみられます。このマル iv 波を終えた後、マル v 波による上昇が続くでしょう。マル v 波は 54,500 円～55,000 円を試す展開もありそうです(ちなみに 55,000 円は筆者が想定する今年の高値です)。

なお上記の見方は 52,523 円(1/6 高値)を下回ることで否定され、この場合、プライマリー第④波による調整入りの可能性が高まります。

### [予想 PER 別の日経平均水準]

1 月 19 日の日経平均予想 PER は 20.30 倍、予想 EPS は 2639 円です。過去最高の予想 EPS は 2694 円(25/11/20)です。



NYダウ・S&P500



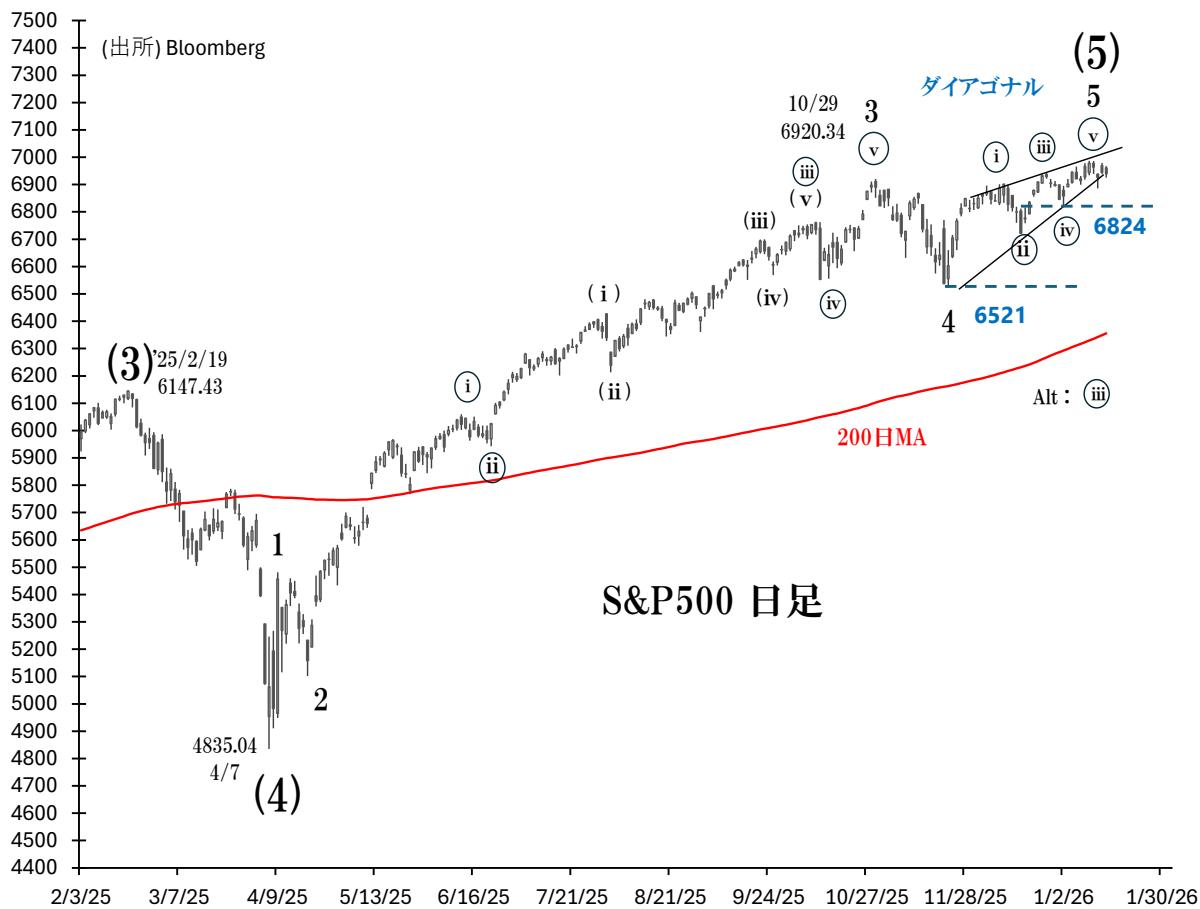
【NYダウ 日足エリオット波動分析】 [19日は休場]

2025年11月安値(45,728ドル)からの上昇は、25年4月以来の上昇第(5)波における最終波・第5波とカウントされます。

1月12日には一時49,633ドルと過去最高値を更新しました。それは第1波と第5波が同じ長さになる水準[49,895ドル]に近く、いつ天井を付けてもおかしくないでしょう。

47,849ドル(12/19安値)を下回ると上昇トレンドの変調が示唆されます。

さらに25年11月25日-26日のギャップ[47,182ドル-47,196ドル]を下回ると、それは強気相場終了の合図となります。



## 【S&P500 日足 エリオット波動分析】

6521(11/21 安値)から、マイナー級の第5波による上昇が進行しています。第5波はトレンド転換を暗示する、「エンディング・ダイアゴナル」を完成したか、しつつあります。

もしも転換パターンの終点が 6986(1/12 高値)であるのなら—6824 を下回るとその可能性が高まります—今後 S&P500 は速やかに 6521(ダイアゴナル始点)へ下落するでしょう。

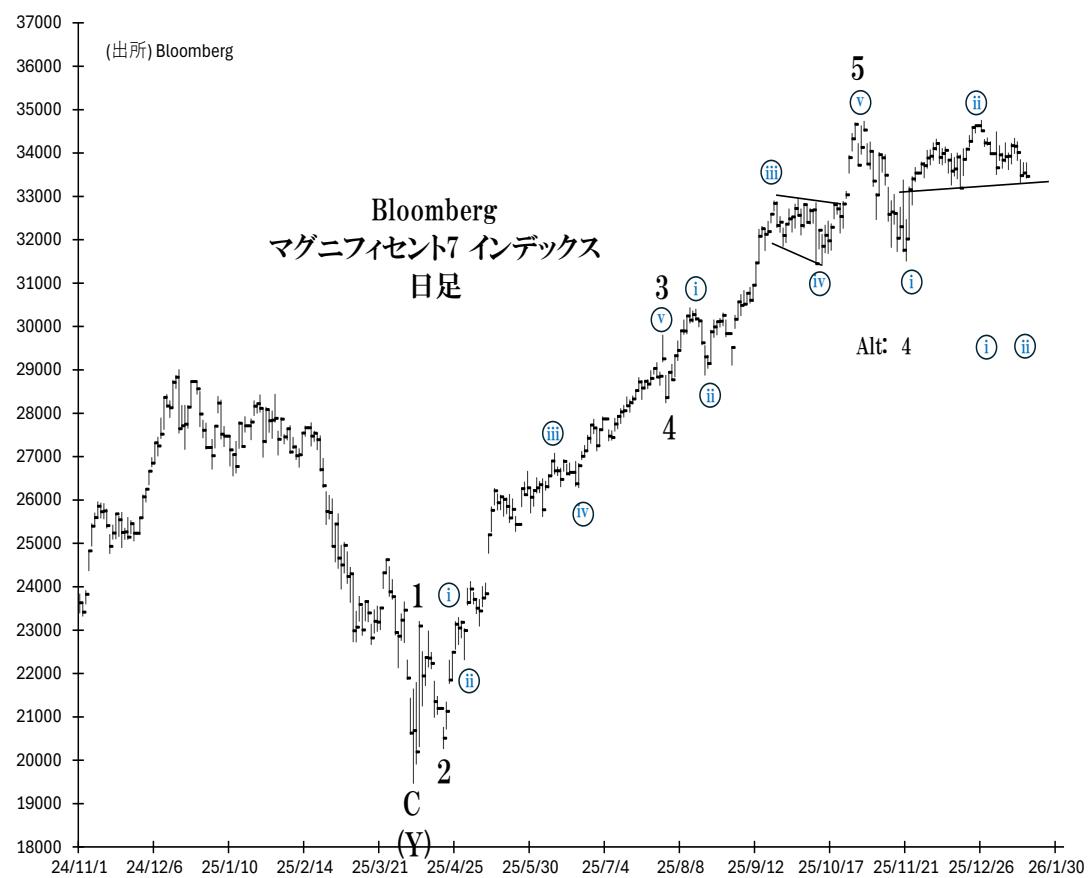
一方、直近高値 6986 はマル iii 波天井かもしれません。この場合は 6824 を割り込みず、マル v 波により最高値を更新しますが、その動きを以て第 5 波は終了します。

いずれにしても、大きな調整の時期は近いと思われます。

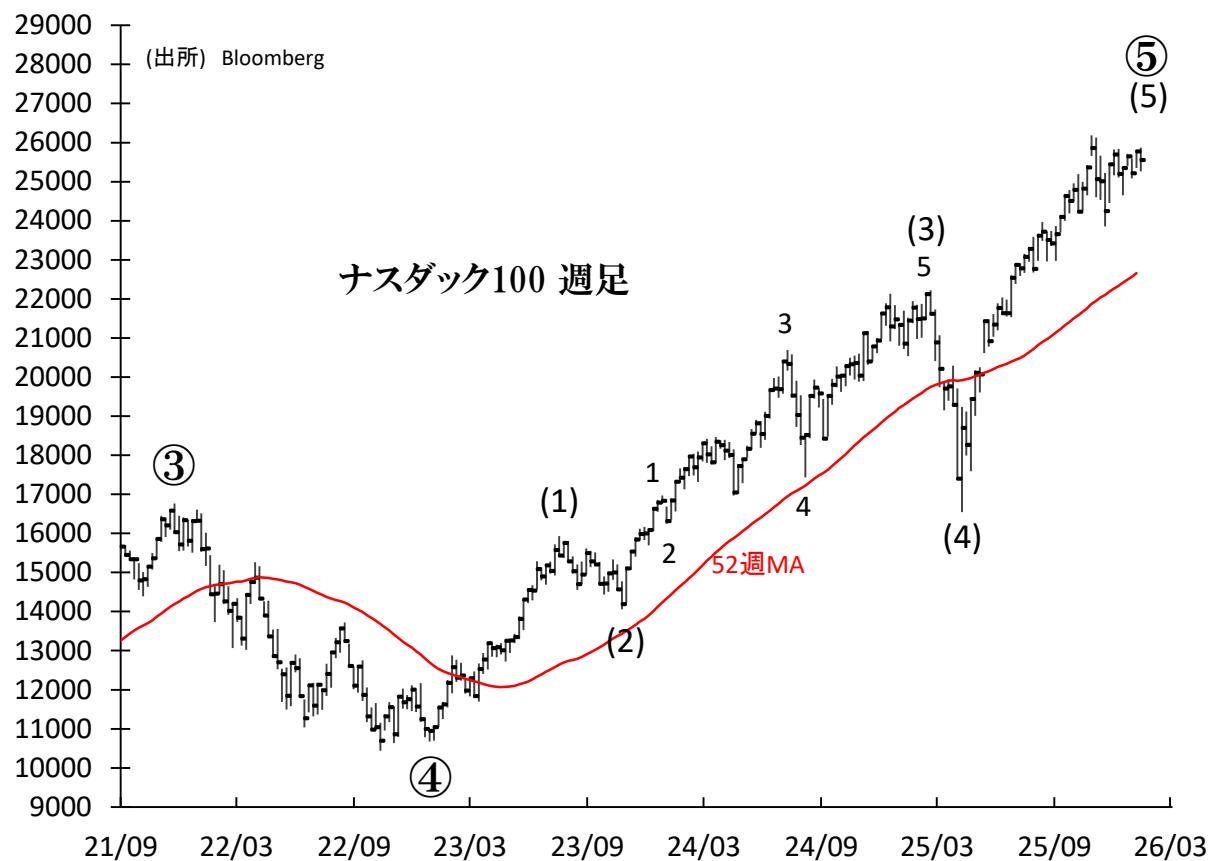
[ダウ輸送株平均] 2021 年高値(18,246)を上回り、最高値を更新



[マグニフィセント 7] 三尊天井のネックライン試し



NASDAQ 100

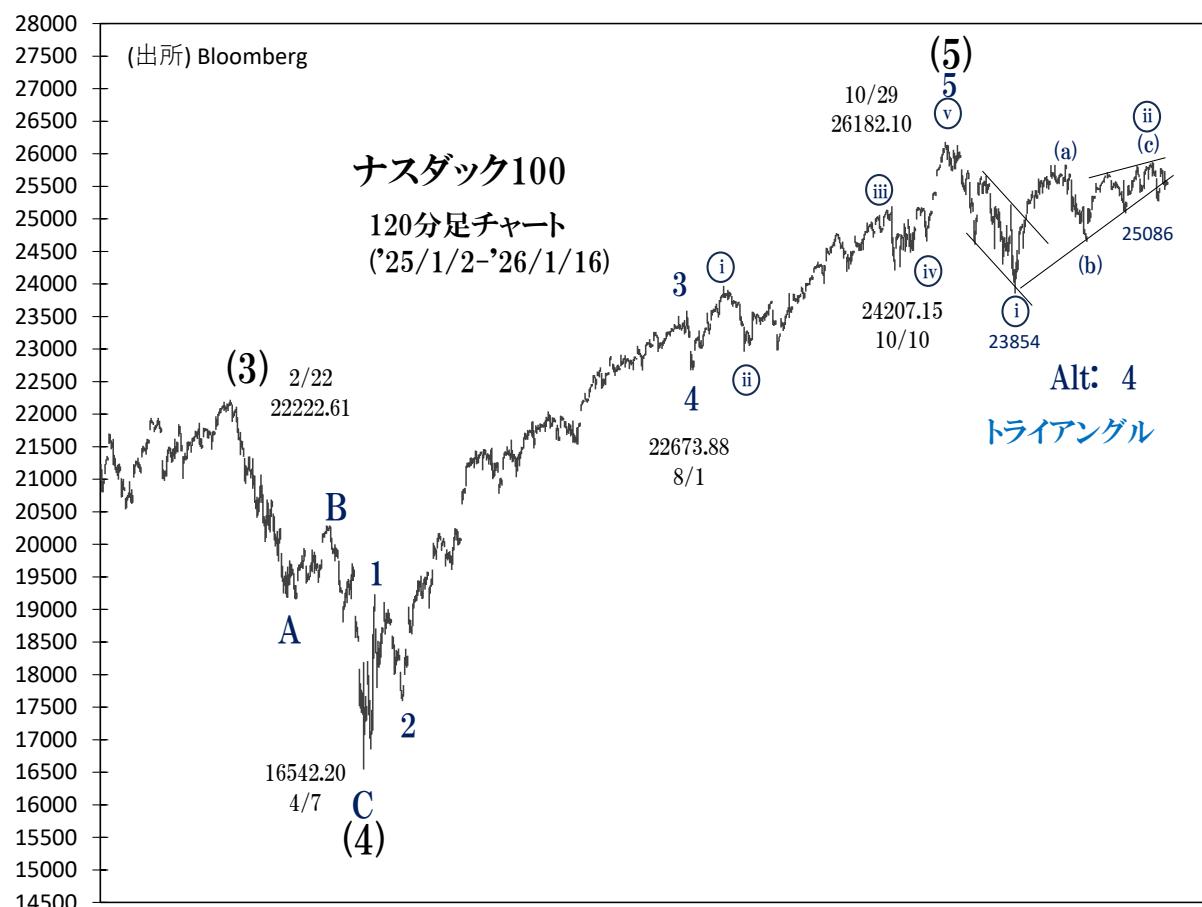


### 【NASDAQ 100 月足・週足 エリオット波動分析】[19日は休場]

2002年10月底から進行してきたサイクル級の上昇トレンドは、その全行程を終えたか、終えつつあります。2022年10月からのプライマリー級の第⑤波による上昇は、25年4月よりインターミディエイト級第(5)波にあり、それは26,182(10/29高値)を以て終わったかもしれません。

あるいは、もう一度の高値更新があり、それを以て上昇トレンド終了ということもあります。

米株相場は2026年前半に、大きな調整局面を迎えることになるでしょう。



### 【NASDAQ 100 時間足 エリオット波動分析】

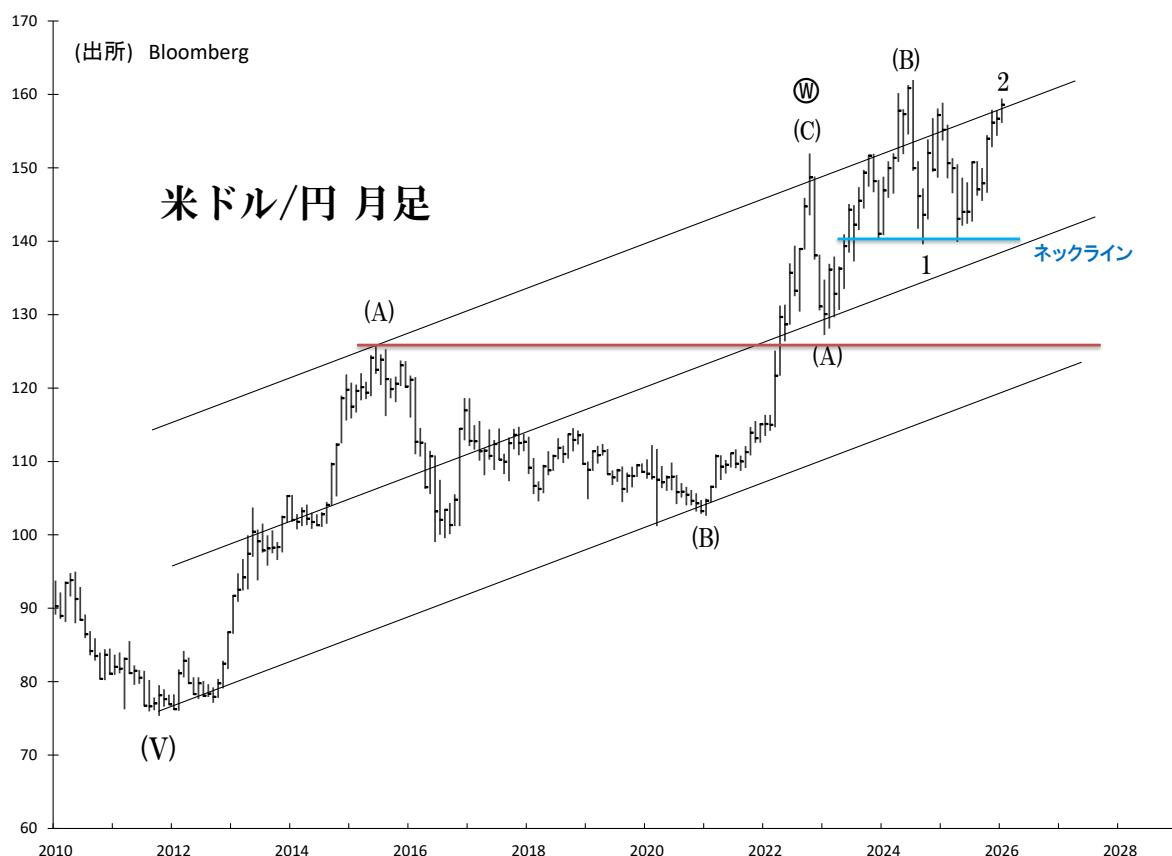
22,673(8/1安値)からのマイナー級第5波は26,182(10/29高値)で完成した可能性があります。この見方によると、23,854(11/21安値)からマルii波によるリバウンドに位置付けられます。

25,086(1/2安値)を割るとマルiii波による下落入りが示され、早々に23,854を下回ることになるでしょう。

一方、10月高値からマイナー級第4波が「トライアングル」であれば、25,086は維持されるはずです。この場合だと1月～2月にも最高値を更新するでしょう。それを以てマイナー級第5波による上昇はすべて終わることになります。

いずれにしても、本格的なリスクオフ局面(弱気相場)への備えが必要であることに変わりありません。

## 米ドル/円



### 【月足・エリオット波動分析】

16年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は2028年4月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は28年4月頃までのどこかの時点で、1ドル=125円～120円へのドル安・円高になる可能性をみています。

1月14日には一時159.405円と、24年7月以来のドル高・円安水準を付けました。ドル/円は1年ぶりに長期チャネル上限を超える(スローオーバー)。併せて足元の水準は、24年の円買い介入ゾーン(157円～161円)内にあります。

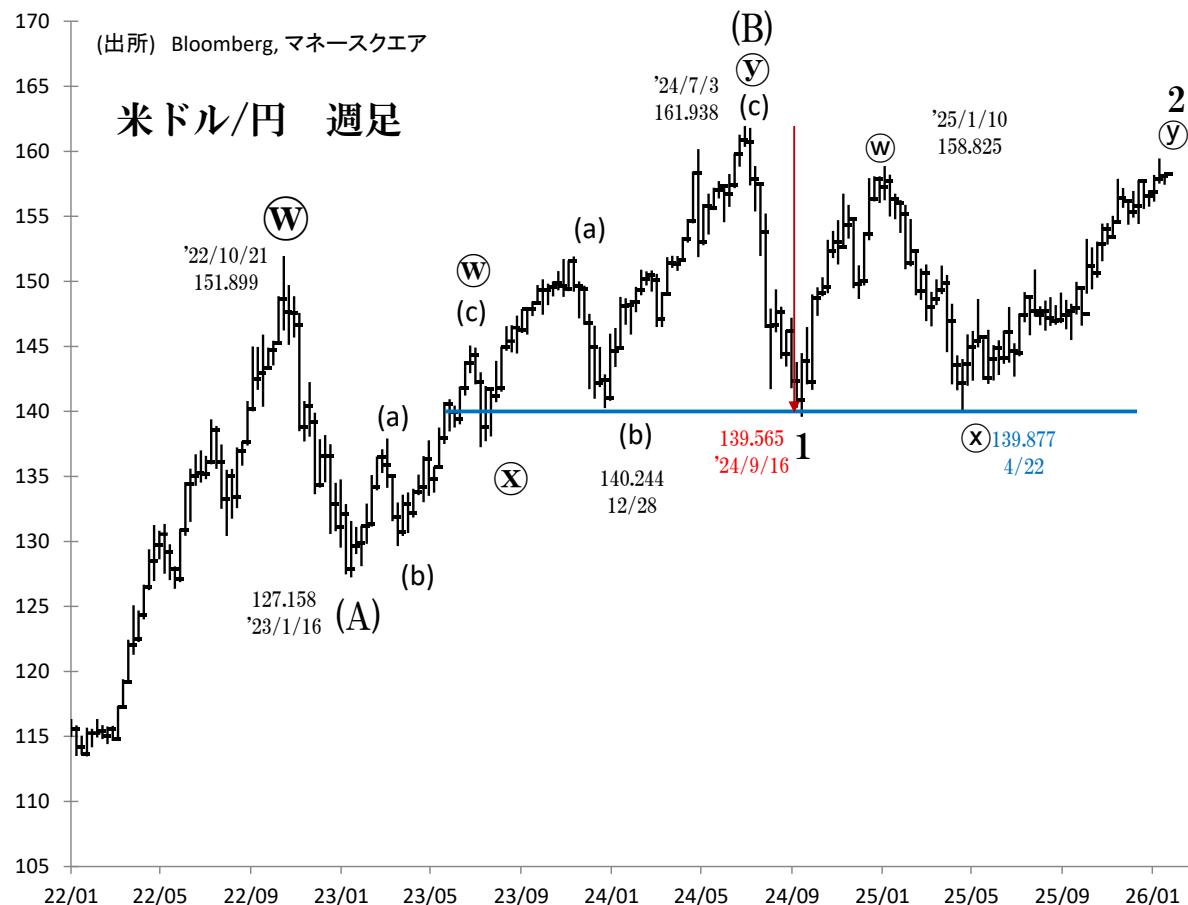
片山財務相からは繰り返し「あらゆる手段を排除せずに適切な対応を取る」という、もっとも強い表現での円安けん制があり、近々(レートチェックなしに)、円買い介入が行われる可能性に留意すべきでしょう。

日米実質金利差から導かれるドル/円の水準は、現在1ドル=139円程度です。足元の日本円は金利差からみた妥当な水準よりも極端に過小評価されており(円安バブル)、このような歪みはいずれ修正される(ドル安・円高方向への)可能性が高いでしょう。

円買い介入が実施された場合、それは過大に積み上がった円キャリー取引(※)の巻き戻し(円買い戻し)を誘発する可能性があります。

(※)BIS(国際決済銀行)によると世界の円キャリー取引規模は40兆円程度とされます。

ドル/円の上昇は既に限界を迎えたか、迎えつつあります。今後はドル安・円高トレンドへの転換が、いつ起きてもおかしくありません。

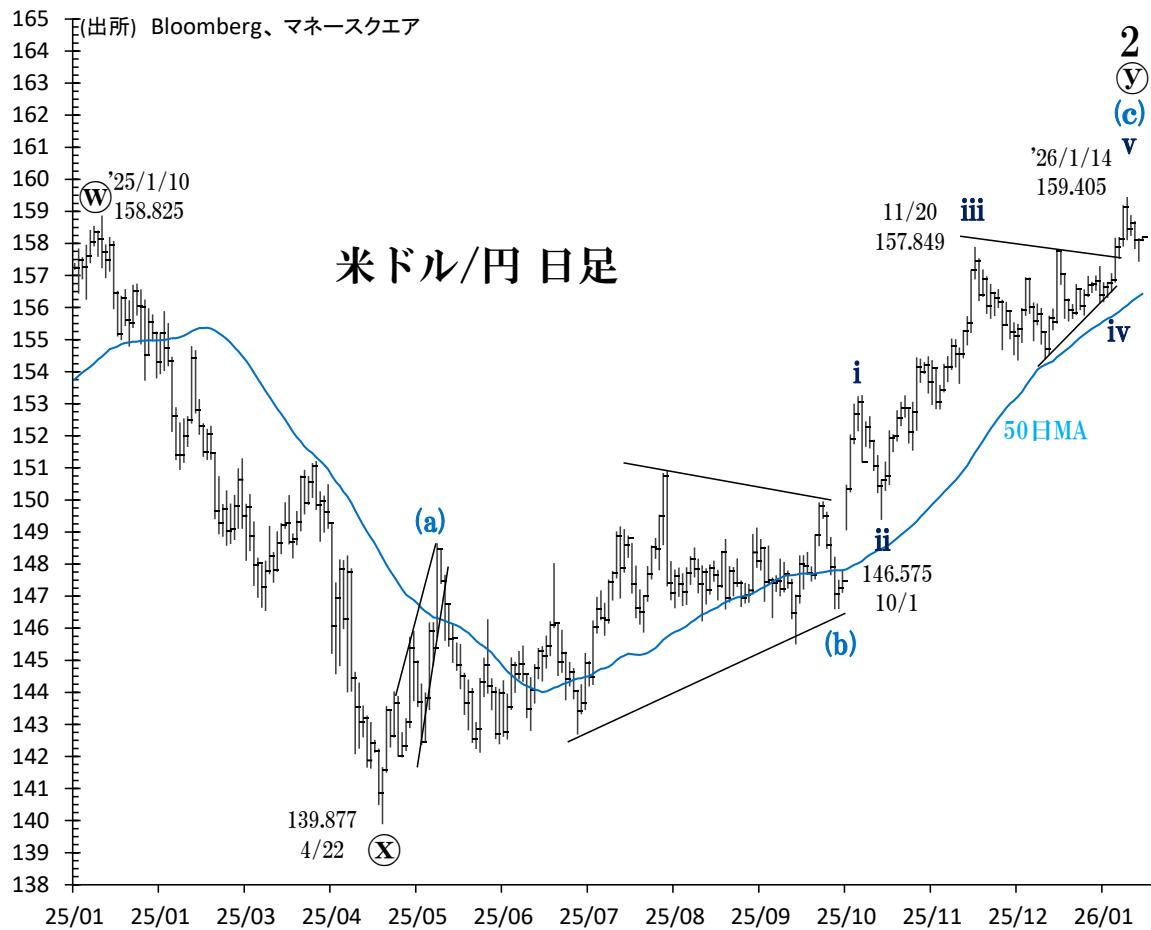


### 【週足 エリオット波動分析】

24年9月安値(139.565円)からの第2波によるリバウンドは「ダブル・スリー」((W)-(X)-(Y))というパターンです。

25年4月以来のドル高・円安波は、いつ終わってもおかしくなく、まもなく第3波によるドル安・円高が始まる見込みです。ひとたび第3波入りとなれば、それは2~3ヶ月という期間で140円圏へ達する可能性もあるでしょう。

25年が良い例ですが、毎年のように12月~1月はドル/円の転換月となっています。今年1月に円高への転換が起きるか引き続き注目してみましょう。



### 【日足 エリオット波動分析】

昨年 11 月下旬から形成された「トライアングル」を上放れ、1 月 14 日には 1 年半ぶりのドル高・円安 (159.405 円)となりました。

この先のポイントとして注目すべきは、50 日 MA 維持の可否です。50 日 MA は昨年 12 月中旬以降の強いサポートとして意識されています。同 MA が維持される限り、ドル/円上昇基調は続いている、とみてよいでしょう。

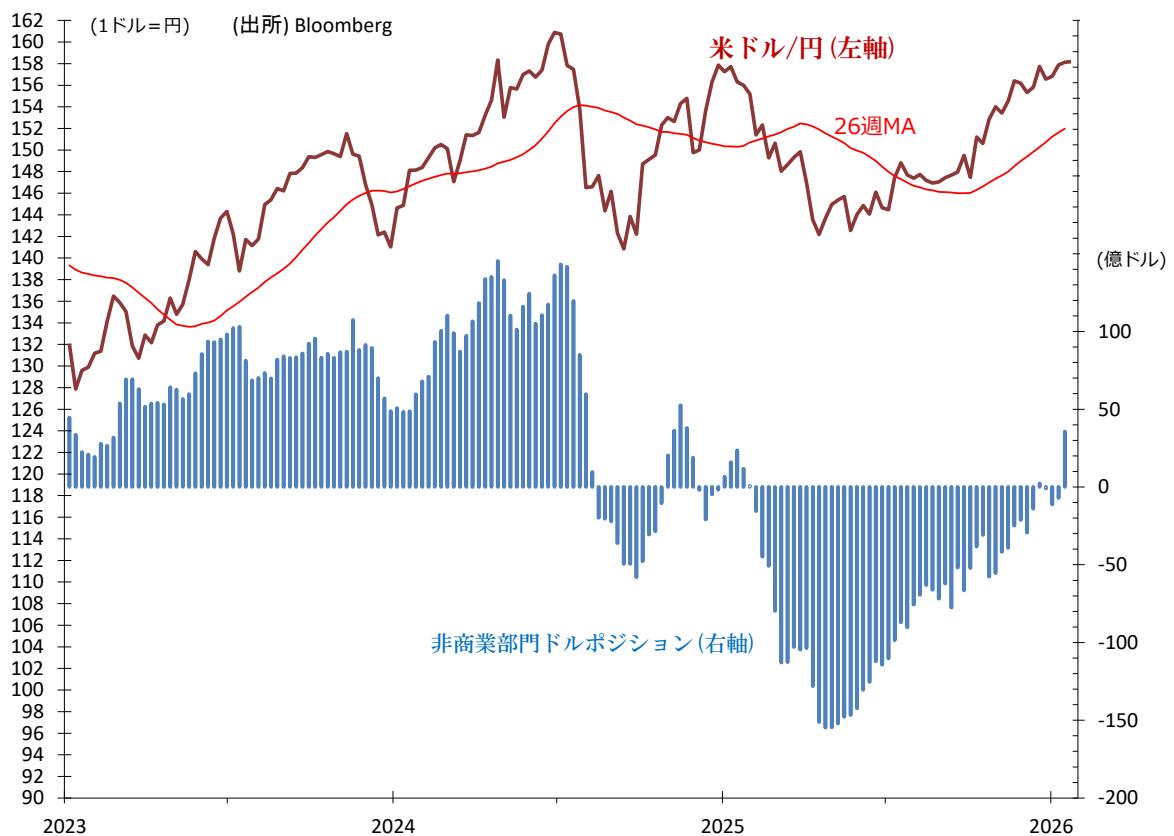
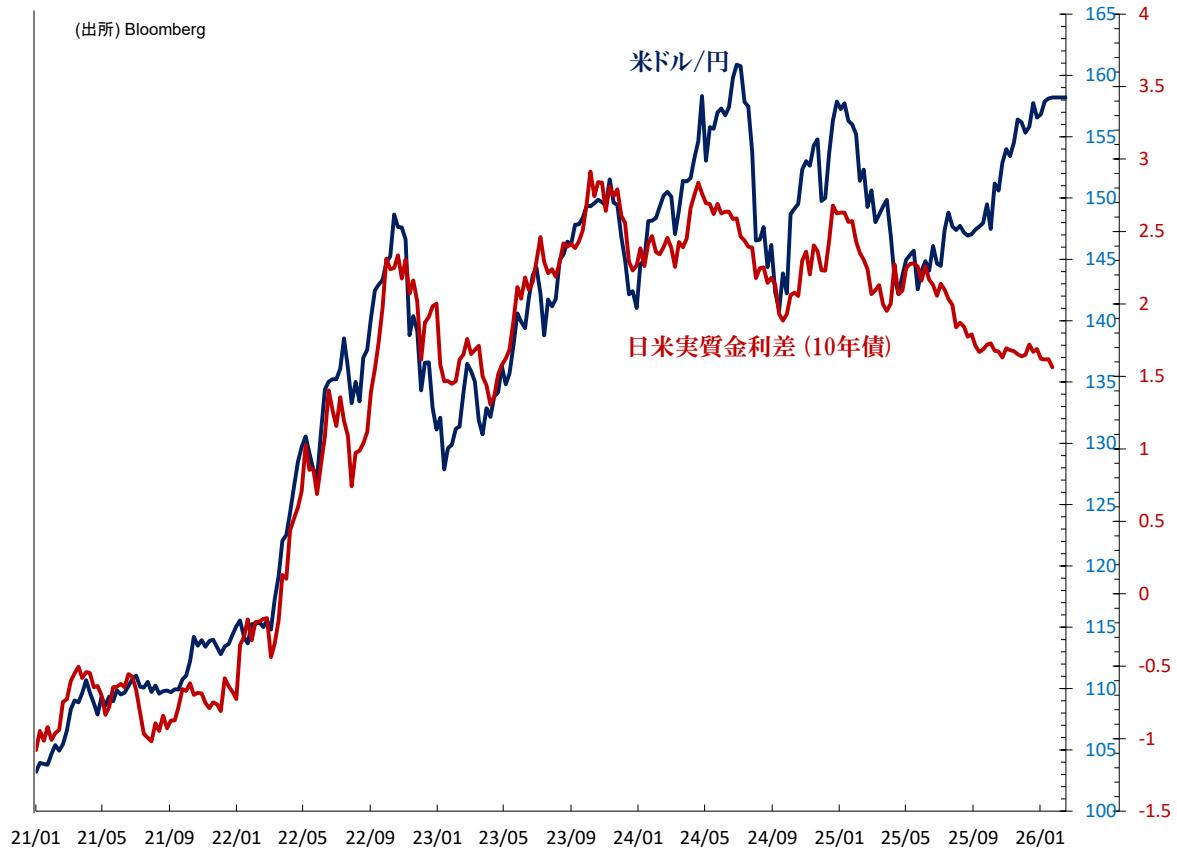
一方 50 日 MA(現在 156.43 円)を終値で下回ると、それは円安終了の合図となるでしょう。

### 金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.511 円]です。

### 投機筋の円買い持ち高は縮小 (2026 年 1 月 13 日時点)

IMM 通貨先物市場における投機筋(非商業部門)の円ポジションは、前週は 7.0 億ドルの円買い持ちでしたが、一転して 35.7 億ドルの円売り持ちとなりました。



## ドルインデックス (ドル指数)

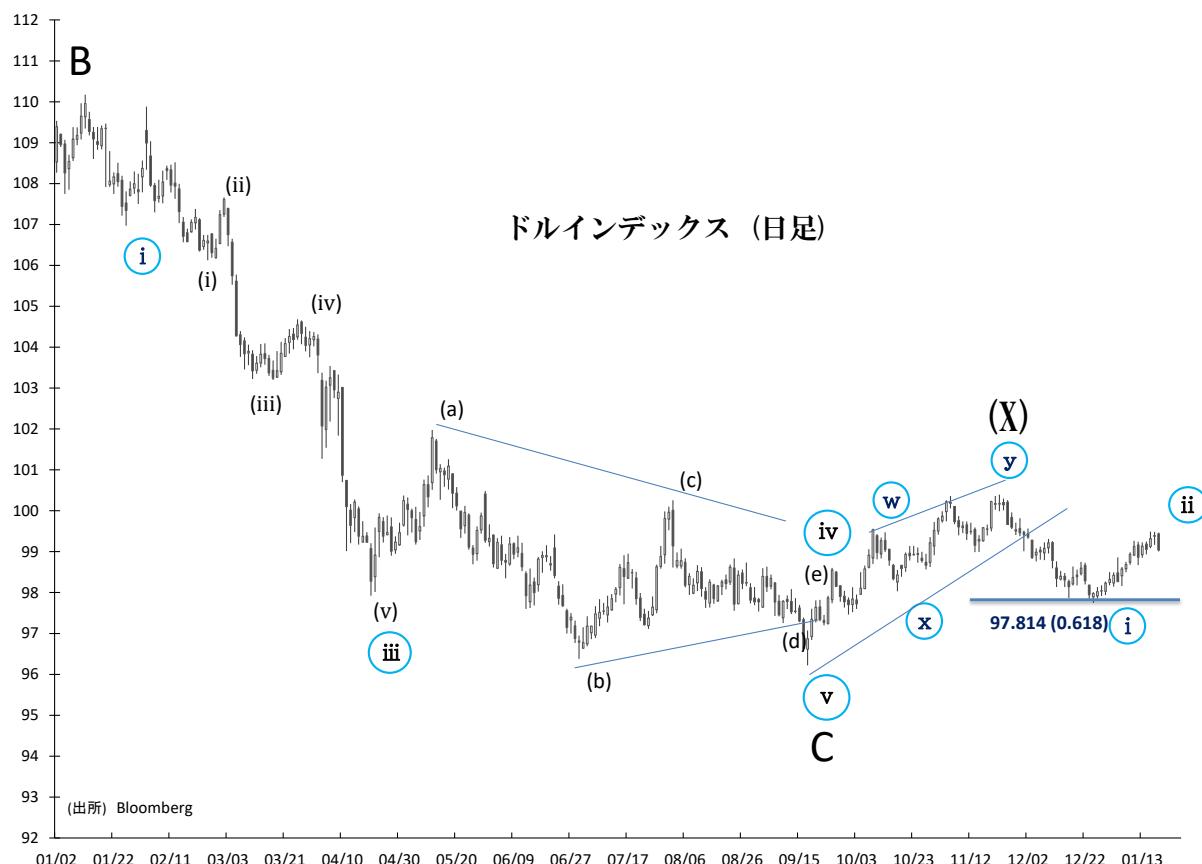


### 【エリオット波動分析】

96.218(9/17)からのリバウンド(X)波は、100.935(11/21)を以て終了した可能性があります(想定していたスケールより一回りは小さいですが)。この見方は、97.814(61.8%押し水準)を終値で下回ると強化されます。

97.749(12/24)からはじり高の動きが続いているが、それも 52 週 MA の水準(100.109)付近までにとどまるでしょう。マル ii 波によるリバウンドは近々終わり、次はマル iii 波によるドル安トレンドに移るでしょう。マル iii 波は、25 年 9 月安値(96.218)を下回ることになりそうです。

一方、52 週 MA に続き 100.935 を上抜いたなら、リバウンド(X)波は続いているとみられます。それは [101.550]「103.197」などを目指す展開となるでしょう。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

## 当社サービスに関する注意事項

- ・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願ひいたします。
- ・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。
- ・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。
- ・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。
- ・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

---

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---